

【参考】

振り返りの時間について

私たちは、日頃の生活の中でいろいろなことに気づいたり思いついたりします。しかし、その多くがすぐに忘れられてしまったり、前後関係があやふやになったりします。また、せっかく気づいたことなのに、誰にも話すことがなかったためにその価値に気づくことができない場合もあります。

環境教育などの参加・体験型学習では、活動の最後に振り返りの時間を持ちます。振り返りの時間は、その日の活動を通して得た自分の気づきや思いをまとめ、それらを他の参加者に披露して共有することで自分の中に定着させたり自分の気づきや思いの価値を再確認したり、さらには、他の参加者の気づきから新たな自分の気づきを得たりするための時間です。

さらに、それらの気づきや思いを、具体的な自分の「アクションプラン（これから取り組んでいきたいこと）」に作り直して発表することで、その日の活動の成果をより効果的に参加者に持ち帰ってもらうことができるのです。

環境教育などの参加・体験型学習では、主催者側から一方的な講義が行われるのではなく、むしろ参加者の気づきや思いを基礎とした意見交換を大切にしています。ですから、この振り返りの時間では、落ち着いて考える雰囲気を作ってください。参加者の発表を促す際の問いかけなども、自由に回答できる雰囲気を持たせ、参加者の思いを否定せず受け入れるように心がけましょう。「はい」「いいえ」で答えられるような質問や正解のある質問はしないことも大切です。

また、環境問題に取り組んでいくのは決して子どもだけではありません。環境教育は、子どもに環境問題のつけを払わせる学習では決してありません。環境問題の現状に対しては大人の方が遙かに密接に関わっているのですから、一緒に参加した大人も、子どもたちと一緒に真剣に考え、子どもたちと意見交換をする必要があります。大人からの積極的な取り組みの披露が大切です、それが子どもたちにやる気を与えるのです。

ぜひ、振り返りの時間を大切にしてください。

とやま国際理解教育研究会 代表 定村 誠